

平成29年度

自己評価委員会報告書

於：平成29年7月～平成30年2月

学校法人長野県理容美容学園

松本理容美容専門学校

平成29年度 第1回 自己評価委員会報告書

日時：平成29年 7月 6日（木） 10：30～12：30

場所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山就職部主任

(学校) 百瀬校長・小原教務主任

長尾理事長挨拶

自己評価委員会にご協力頂き感謝しています。先日の就職ガイダンスにおいて、どこのサロンも人材不足である事を感じた。それには、安定した業界になるように努力してもらい、高校生に興味を持ってもらう事、その結果は、必然的に学生獲得へと繋がっていくと思う。

各専門学校の学生獲得が凄まじいものである。両校とも常に前向きな発想を持って、それを具体的にやるチャンスを掴んでいくことが必要である。

規制緩和が進む中で安閑としていられない現状であることをわかっていなくてはならない。

百瀬校長より

今後、自己評価委員会については両校同時開催を交互にしていく予定である。

【審議検討事項】

1. 平成29年度自己点検・自己評価について

29年度中間報告として、教育活動の5項目・学修成果の3項目・学生支援1項目が3から4に評価改善された。

教育環境・学生募集と受け入れ・財務について特記が更新された。(資料1参照)

・自己評価HP更新について・・・28年度分、両校とも財務も含めて7月中に更新していく。

2. 平成29年度重点目標について、中間報告

① 授業内容の充実 ②教職員の指導向上を図る ③教育活動の評価をあげる

中間報告として、現時点で29年度重点目標の実施状況の報告

今後、30年2月までに重点目標についてと課題についても極力結果を出していきたい。

3. 学校関係者評価委員会より報告(資料2)

・教育活動・学修成果について即戦力となる人材育成に努めてもらいたい。

・学生支援の在り方(奨学金)

・少子化に伴う学生募集方法(学校の魅力PR)

・学校運営・教育環境・財務・法令の遵守などは、安定した状況である。

以上が、学校関係者評価委員会にて検討した事項の報告

4. 嶋村副理事長挨拶

自己点検・自己評価について、主観的と客観的、あるいは主対的と相対的と相反する捉え方があり難しいと思う。また、この学校評価が閲覧するためのものか、認可を受けるためにするものか、そうではなく学園がより良くなるための評価というのが本質であると思う。こうした観点で進めていってほしい。

5. 次回自己評価委員会 平成30年2月実施(日程については今後検討)

平成29年度 第2回 自己評価委員会報告書

日 時：平成30年 2月 8日（木） 13:00～15:00

場 所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山広報企画部部长
(学校) 百瀬校長・小原教務主任

長尾理事長挨拶

自己評価委員会の場合は、自己の反省をふまえ、両校教育をより一層向上することのできる良い機会になっていると感じている。今後も引き続き、内容の濃い会にしてほしい。

百瀬校長より

両校合同で、自己評価を行う事は、同じ観点の元で、教育内容等を見直しすることが出来て良かった。職業実践専門課程認定に向けて、前向きな意見交換のできる場としていきたい。

【審議検討事項】

6. 平成29年度自己点検・自己評価について（資料①参照）

29年度報告として、7月自己評価委員会において中間報告した項目に加え、3から4に評価改善された項目と、全項目の周知すべき点の報告を行った。

（基準1） 総括：理念・目標を日々の指導に繋げるために簡潔で明確なキャッチコピーを教職員の総意として作成した。

「あなたが誰かの夢になる」

- ・職業実践専門課程認定に向けて取り組みを開始した。学校関係者委員会・教育課程編成委員会からの提案も含め、充実したカリキュラムの作成
- ・理容科再開につき、新しいイメージ [メンズビューティ] を目標とする。理容の支援サロン懇談会を開き、カリキュラム等の検討を行った。

（基準2）

- ・平成29年 理容科13期生再開
- ・30年度からの実施に向けて、学生証のカード化。学則等の便覧化など準備を整えた。

（基準3） 総括：職業実践専門課程を取得する取り組みとして、5科目の産学連携授業を開始した。

- ・年2回本校で開催される就職ガイダンスでは、サロンと学生との面談機会が設けられ、業界の人材ニーズに向けて共通理解の機会となっている。
- ・教育課程編成委員会において、提案された案件について、教科会・職員会等で審議・検討され実施する計画を立てている。
- ・授業評価のアンケート調査は、一部の教科に限らず、学科全体として体系的かつ計画的に実施されており、学生及び教職員のモチベーションを喚起し、学生のニーズに応える教育環境の実現のため「即戦力として社会で通用する人材の育成」という評価体制を引き続き構築していく。

（基準4） 総括：社会的基礎力などで、「教養」「人間力」等現状としては、基礎知識や一般的なマナー常識などの点で不十分であり、そうした分野において、継続して養成に努める必要がある

- ・入学生の基礎学力・意欲または経済力に差が多く、今年度は退学2名・休学3名となった学習に意欲を持たせる仕組み作りが必要である。また、精神不安定者のカウンセリングも早期の内に対応する。

(基準5)

- ・学校支援サロンに対し、就労条件向上のための就職セミナーを定期的で開催していく。業界の魅力向上するために、業界と学校が協力し、業界全体の就労条件が向上し本校卒業生が安心して働ける環境づくり。高校生から魅力ある興味を持ってもらえる職種にするために、就職セミナーを開催し、啓蒙活動を行っている。
- ・平成30年度からの授業カリキュラム編成において、サロンで活躍中の卒業生を講師として授業を担当する機会を計画している。

(基準6) 継続して、問題なく実施できている。緊急時の対応の強化として、両校連携体制を実施していく。

(基準7) 総括：今後より一層、学生募集状況は厳しくなると考えている。本学園独自の魅力を伝え(国家試験合格率100%・就職内定率100%・全国規模のコンテストでの好成績・教育内容の充実・支援サロンとの協力体制等)選んでもらえる学校をPRしていく必要がある。

- ・理容科の魅力向上のために、支援サロンの先生方からサロン技術指導の授業を実施している。理容科支援サロンとの協力体制完備。定期的に懇談会を開催し、意見交換を行っている。
- ・学園HPの充実化の必要性。今後、SNSの普及に合わせたシステム強化をしていく必要がある。SNS・インスタグラム導入検討資料を取り寄せ、業者と打ち合わせを行っている。今後前向きに検討していき導入につなげていく。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

(基準9) 3月31日付け報告書を、3月理事会にて承認後、学園HPにて公開していく。

(基準10) 年1回本校において献血、在校生の約4分の1程度の協力者がいる。高齢化社会における高齢者の特徴を学習したうえで、社会福祉施設で高齢者対象の美容ボランティアを年3回実施、利用駅から校舎近隣までの清掃を実施している。今後、ナガコレに準ずるナワコレに参加する方向で検討している。

7. 重点目標について (別紙1・2参照)

○29年度実施報告

- ① 授業内容の充実 ②教職員の指導向上を図る ③教育活動の評価をあげる

3月31日時点で29年度重点目標の実施状況の報告

30年度も引き続き、重点目標を中心に向上していく努力をしていく。

○30年度目標課題

- ① 授業内容の充実 ②教職員の指導向上を図る ③教育活動の評価をあげる

29年度重点目標に④学生募集の対策についての目標を追加した。

本年度、入学者数が、昨年度より30名減少したことに危機感を持ち、職員全員で学校の魅力向

上するための努力をしていきたい。

- ・オープンキャンパスの充実
- ・校内・校外実施の進路ガイダンスの充実
- ・高校廻りをし、高校側との信頼関係の構築を図っていく。
- ・HPの充実を図る。SNS・Instagram導入検討していく。
- ・本校卒業生の活用。

8. 職上実践専門課程認定の流れ報告（別紙3）

松本校においての、職業実践専門課程 推薦認定までの流れを説明。引き続き、認定予定2月下旬まで、3月末の認定校決定に向けて、真摯に対応していく。

長野校は、本校を参考にしていってほしい。

9. 嶋村副理事長挨拶

常に、学校を維持していくための努力は惜しまないでほしい。

自己点検・自己評価の結果を出していく難しさがある。時に評価に対して、個人の甘辛が出やすい。特に教育活動については、評価基準を上げる努力を惜しまず、課題を浮き彫りにし、どのように改善していくのかを考え、具体的に結果を出していく。今回の評価で終わらず、毎回繰り返すごとに、クオリティを上げていく必要がある。学校として、良いPDCAサイクルに従って、引き続き良い意見・知恵を出し合ってもらいたい。

10. 次回自己評価委員会

日 程：平成30年7月4日（水） 10時30分より

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

平成29年度

学校関係者評価委員会報告書

於：平成29年4月～平成30年3月

学校法人長野県理容美容学園

第1回学校関係者評価委員会 報告書

日時：平成29年4月13日（木）13：30～15：30

場所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：(有)ミヨシ取締役社長 三好 政明先生・(有)大和インターナショナル代表遠山 一行先生
百瀬校長・吉川事務局長・小原教務主任・桐山広報企画部長

【議題】

1. 評価委員・評価委員会業務の概要と説明（別紙1）を行った。

2. 28年度自己評価点検・自己評価について（資料1）

① 基準項目（10項目）並びに点検中項目（37項目）の報告・説明・確認を行った。

② 28年度重点目標

・実施報告・課題の説明

1) 重点目標Ⅰ 学生募集活動の充実

- ① 来校者に魅力を伝えるオープンキャンパスの企画
- ② 進路説明会における統一マニュアルの作成

《実施報告・課題》

- ① オープンキャンパスにおけるイベント企画として、クリスマスイベントを行った。
通常の実習体験に加え、在校生主催のビンゴゲームやクリスマスの飾りつけ等。
参加した来校者に楽しんで頂ける機会となった。
- ② 学科ごとに特徴を掴んだ、明確で説明する側の統一できるものを作成した。

2) 重点目標Ⅱ 授業内容の充実

- ① 平成30年度単位制への教科検討とシラバスの作成
- ② 実習授業における指導方法の統一

《実施報告・課題》

- ① 単位制教科の検討ではメイク・ネイル・パーマ・セットの2年次選択授業を取り入れる。
また、ヘアカラー協会との連携によるヘアカラー資格が取得できる体制を整えている。
現状の色彩検定からパーソナルカラー検定へ教科内容の見直しを行っている。嘱託講師との連携
を高め、各教科のシラバス作成に着手している。
- ② 実習授業においても、教科ごとのシラバスを作成して指導方法の統一に着手している。

3) 重点目標Ⅲ 情報公開と就職指導の充実

- ① 職業実践専門課程認可への取組
- ② 自己評価報告書のホームページ上公開
- ③ 就職内定サロンによる「労働条件通知書」の提出と管理

(実施報告・課題)

- ① 認定取得に向けて、各認定要件に取り組み始めた
- ② 28年11月末に、27年度の自己評価並びに基本情報をホームページに掲載した
- ③ 雇用側、被用側（学生）との労使間で明確な労働条件を交わすことで、就労後の諸問題
減少に寄与する

※Ⅰ・Ⅱについては、引き続き学生募集に重点をおき行っていく。

3. 第2回自己評価委員会報告について（資料2）

①改善点について、詳しく説明を行った。

《課題》

- ・基準3 教育活動の評価については、ほぼ適切3であるが、今後継続的に具体的施策を行っていく。評価3以下の部分を改善していかななくてはならないが、30年度より単位制になることで改善できる部分のため、29年度においては現状維持のまま、実施していく。
- ・基準4 学修成果 退学率の低減が図られているかの評価が4から3になった点について今後、早い段階でのメンタルケアに努めていき、改善につなげていく。
- ・その他の点については、改善された。

②29年度重点目標について

- 1) 重点目標Ⅰ 授業内容に充実
- 2) 重点目標Ⅱ 教職員の指導力向上を図る 教育活動の評価をあげる

※上記2点について、重要であることは、教職員の指導力向上を図る事である。それにより、授業内容の充実を図ることが出来ると考える。

その他として、学生の経済的側面に対する支援体制の整備においても、検討していく必要がある。

4. 施設見学

5. 次回予定

第2回学校関係者評価委員会 平成29年7月13日（木） 13：30～

第2回 学校関係者評価委員会 報告書

1. 開催日時

第2回 平成29年7月13日(木) 13:30～15:30

2. 開催場所 松本理容美容専門学校 1階校長室

3. 委員

委員	所属企業・団体名	役職名	概要
遠山 一行	(有)大和インターナショナル	代表取締役	長野県内に理美容室6店舗 経営・講師として活躍 カラー協会長野県ブロック長
三好 政明	(有)ミヨシ	代表取締役	材料商 長野県美容用品商業組合理事長 各種講習会実施

4. 職員

委員	所属企業・団体名	役職名	概要
百瀬 昭江	松本理容美容専門学校	校長	
小原 一正	松本理容美容専門学校	教務主任	
吉川佐恵子	学校法人長野県理容美容学園	事務局長	
桐山 美奈	学校法人長野県理容美容学園	広報企画部長	

5. 平成29年度自己評価・自己点検中間報告

①平成29年度自己評価・自己点検中間報告について

・28年度自己評価結果評価3の部分を改善し、より良い内容にしていくため、自己評価・自己点検を行っている。今後も引き続き、繰り返し自己評価・自己点検を実施していく必要がある。

・評価3から4に変更した部分を説明、報告を行った。

(基準1) 教育理念・目的・育成人材像等

・評価4だが、より良い学校にしていくために、両校職員から提案し合い、学校のキャッチコピーを決定した。

「あなたが誰かの夢になる」教員・学生全員が統一の意識で取り組んでいけるように考えている。

(基準3) 教育活動

・全体的に評価3が多いが、常に見直しながら改善していく必要がある。

(基準4) 学修成果

・今後も引き続き資格取得率の向上・学生指導内規の見直し・全国規模コンテストでの好成績獲得を目指し、退学率を低下させていきたい。

(基準5) 学生支援

・卒業生への支援体制として、今後卒業生を講師としての授業を導入していく予定である。

卒業生が開店する場合、学校からお祝いを贈り、卒業生の実績を在校生にも知らせ目標を高く持たせるきっかけとなる。

(基準6) 教育環境

・現在、修学旅行として表参道コレクションに参加しているが、今後東京オリンピックに関係で日程がむずかしくなると考える。他のイベント情報を考える。

(基準7) 学生募集と受け入れ

- ・現状は毎年100名前後の学生を受け入れる事が出来ているが、今後、18歳人口の減少に伴い厳しい時代になっていく。学校として100名獲得を目標に、学生募集活動に力を入れていく。特に東信・南信方面においては、県外流出の懸念があるため、対策をしていきたい。

(基準8) 財務

- ・財務については、安定しているので、問題ない。

②重点目標中間報告について

- ・重点項目において、もっと強化していく必要がある項目について重点目標として実施してきた。

(重点目標①) 授業内容の充実

- ・30年度より授業内容を充実させ、より即戦力のある人材育成を行っていくために学校支援サロンによるカット授業30時間を導入していく予定である。内容については peek a boo のカット教本を基本としていく。即戦力を育成することで、就職後の離職率低下に繋がり、学生募集の面でも学校の特色としていく。今後、内容・日程については打ち合わせ後、決定する。
- ・30年度より、カラー協会カラー検定授業を導入していく予定である。職員資格取得については、今年度両校5名ずつ検定受験を実施していく。
- ・個々の学生指導につながる[コミュニケーションスキル]教職員研修を実施。

(重点目標②) 教職員の指導向上を図る

- ・カラー協会カラー検定授業を理容科においては、今年度より実施。美容科は30年度より専任教師による授業を計画している。

(重点目標③) 教育活動の評価をあげる

- ・特にサロン離職率低下に重点をおき、対策を検討していく。

6. 学校関係者評価委員より提言

○各項目・重点目標について

- ・就職後3年間の離職率について方策をしていく必要がある。

[離職する理由]

- ① 人間関係のトラブル② 2年目中間生としての難しさ③ 3年目スタイリストデビューで達成感
- ④ SNSからの情報→お互いに、共有することが大切である。
- ・学校での教育とサロン現場とのギャップを上手くうめられるかが重要。
→学校側として業界の厳しさを学生たちに教えておいてほしい。
- ・美容学生のサロン選びも変化してきている。
サラリーマン感覚なサロン選び、条件のみでサロン選択している傾向。
- ・美容師を目指す高校生の変化→美容師でなく、ヘアメイクアーティストになりたい。正確な情報提供していくべき。
- ・就職ガイダンス時にサロンに対して、厳しい条件を提示している。(給料・保険面等)
- ・サロン数の多さも原因では。
- ・奨学金について来年度から就職ガイダンス時に説明をしてサロン側に理解してもらうべき。

*本校の教育・資格取得率の軸はぶれる必要はない。伝統校としての誇りは守るべきである。

ネガティブ要因よりポジティブ要因をPR。

本校卒業生から現場の素晴らしさを伝える場を今以上に増やして行ってほしい。

- ・新人教育は各サロンの規模によって違うのでは。
 - ・基本的な礼節（挨拶・返事・マナー等）を学生のうちに、きちんと身につけさせてほしい。
- 他力本願の学生が多い傾向を感じる。返事の出来ない学生。通信制の学生の質も変化してきている。
- ・人の気持ちを素直に聞けること。自己PRが出来ること。

○職業実践専門課程の推薦課目について

（遠山・三好委員）

- ・推薦科目のトータルテクニック（カット・カラー）等、推薦科目それぞれ教職員んの研修も進んでいるようです。

引き続き、業界の講師の先生方との連携で充実した授業として欲しい。

7. 次回予定

第3回学校関係者評価委員会 平成30年3月 1日（木） 13：30～

第3回学校関係者評価委員会 報告書

日 時：平成30年3月1日（木）13：30～15：30

場 所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：(有)ミヨシ取締役社長 三好 政明先生・(有)大和インターナショナル代表遠山 一行先生
百瀬校長・吉川事務局長・小原教務主任・桐山広報企画部長

百瀬校長より 学校関係者評価委員会3回目の開催となるが、より良い内容にしていくために、忌憚ないご意見を頂戴したいです。この会は、第三者からの評価・意見を頂く会である

【議題】

1. 平成29年度自己評価報告（資料1）

① 基準項目（10項目）並びに点検中項目（37項目）の報告・説明・確認を行った。

28年度自己評価結果評価3の部分改善し、より良い内容にしていくため、自己評価・自己点検を行っている。今後も引き続き、繰り返し自己評価・自己点検を実施していく必要がある。評価3から4に変更した部分を説明、報告を行った。

（遠山委員より）

Q30年度卒業予定の理容科学生の就職先として、美容サロンにも就職可能か。

Aメンズグルーミングサロン等就職可能だが、美容サロン登録の場合、経営者が理容師資格を取得していないと雇う事はできない。

理容科学生の希望に沿ったサロンに声掛けをし、就職ガイダンスに繋げていきたい。

・法改正もあるので、今後理容科希望者が増えていくのでは。

（三好委員より）

・卒業生との関わり方として、HP上で卒業生コーナーを作成してみたらどうか。

高校生からの美容業の印象として、安給料・休みが少ない・勤務時間が長い・スタッフ間の仲が悪いなど、ネットからの情報（ネガティブ情報）をまともに受けている。

良い情報を流す方法として、卒業生のサークル（就職1・2年生対象）を作ってみたらどうか。同窓会形式の学校主催の勉強会・懇親会を実施してみると良いのでは。

（遠山委員より）

・卒業生を活用することは賛成だが、方法をきちんと考えてから実施しないと悪口会になる危険性もあるのでは。

（学校より）

・人間関係に対する心の持ち方・柔軟さ等をもっと指導していかなくてはと考えている。

（遠山委員・三好委員より）

・美容師として生きていくには、各個人差がある。学校は現状においても精一杯教育・育成して頂いているので、学校側がすべての責任を負う必要はないのでは。今後、美容業魅力向上のPRイベントを、学校・業界・ディーラー・組合が協力して開催していければ、より良い方向に向けてけるのでは。

(学校より)

- ・松本校が30年度入学生数3割減少した理由として、県外流出・理容美容の差の説明の難しさ
他業種への移行・高卒就職者の増加が考えられる。美容業種への希望者が例年と比較し、減少
している。美容師離れも原因の1つと考えているので、今後、業界と協力し魅力をPRして
いきたい。

② 平成29年度重点目標 (別紙1)

・実施報告・課題の説明

4) 重点目標Ⅰ 授業内容の充実

- ① 平成30年度授業カリキュラム変更に伴う見直し
- ② 実習授業における指導方法の統一

《実施報告・課題》

- ③ 平成30年度授業カリキュラム変更に向けて、授業内容・時間配分の見直しを進めた
- ④ 平成30年度授業計画から、支援サロンによるカット授業30時間の計画に向け、担当
サロンの技術者との手合わせと打ち合わせを実施。
- ⑤ 平成30年度からのヘアカリスト検定導入にむけて専任教師の研修・検定取得を進めている。

5) 重点目標Ⅱ 教職員の指導向上を図る

- ① 授業計画・授業準備の打ち合わせの実施
- ② ヘアカラー認定校に向けて
- ③ ビューティビジネス科ブライダルカリキュラム導入に向けて

(実施報告・課題)

- ④ 担任教師・専任教師・外部講師による授業計画・準備・打ち合わせの実施
- ⑤ 日本ヘアカラー協会の認定校となり、29年度理容科からヘアカリスト検定シングル
スターを取得。平成30年度美容科において専任教師による授業計画を実施できるよう
体制を完備している。
- ⑥ 個々の学生指導につながる「コミュニケーションスキル」を身に付ける教職員研修を
計画・実施
- ⑦ 平成30年度からビューティビジネス科のブライダル関連のカリキュラム導入にあたり担当者の
打ち合わせ・技術指導の検討

6) 重点目標Ⅲ 教育活動の評価をあげる

- ① 就職ガイダンスの実施
- ② 職業実践専門課程となる実践的教科の準備
- ③ 制度改正による各教科カリキュラム作成

(実施報告・課題)

- ① 年2回の就職ガイダンス時に、サロンとの連携事項として就職から3年間の離職率
低下を課題に説明を行っている。
- ② 職業実践専門課程となるコミュニケーション学・メイク・ネイル・ヘアカラー・カット
の5教科において、より実践的な実習内容を導入できる準備に取り組んでいる。
- ③ 理美容の制度改正により、教科課目の時間数変更・標準カリキュラム等に合わせ、
対策をし、カリキュラム作成を行った。

③職業実践専門課程について（別紙2）

- ・職業実践専門課程認可に向けて、推薦科目としてヘアカラー・カット・メイク・ネイル・コミュニケーションの5科目について、企業等と連携した実習・演習の内容を報告（遠山委員より）
- ・とても良い取り組みである。5科目とも時代性に合っている科目である。講師として学生の達成目標をもう少し明確してもらえると、学校とサロン側の差がなくて良いのでは。企業として、サロン現場において技術習得するために型と施術時間を大切にしている。もっと明確な目標設定をした方がよい。また、技術内容として、基本も大切だが、少しずつバリエーション（応用技術）も学べる内容があったら良い。（三好委員より）
- ・ネイル技術に関して美容サロンでの継続性があるのか疑問である。カラー・カット・パーマ・メイク技術については、業界において将来性が大きい技術である。
- ・アイラッシュについては、保障の部分もしっかりと学習させてほしい。アイラッシュ専門店が増加傾向であるので、伸びている業種であると思われる。
- ・人間関係の調和性・協調性のある人材育成が今後、もっと必要になってくると考えるので、コミュニケーションの授業内容を充実させ、コミュニケーション力を向上させてほしい。

2. 平成30年度重点目標（別紙3）

29年度重点目標を軸に、各重点目標項目に具体的目標を追加した。
本年度以上に学校教育の質向上のため、職員全員で努力をしていきたい。

重点目標①授業内容の充実

重点目標②・教職員の指導向上を図る ・教育活動の評価をあげる ・学生募集対策

3. 就職セミナー感想

（遠山委員より）

- ・就職セミナー・サロン懇談会はとても良かった。学校としての対応もきちんと出来ていてお互いに意見交換の場となったのでは。働き方改革に向けて、美容業界も対策を考える時期である。
- ・消費税10%になるにあたり、対策としてサロンごとの差が出てくるのでは。美容料金の設定についても、技術料金との兼ね合いもある。世の中の動向を見て、当面据え置きも必要だと思う。

（三好委員より）

- ・消費税10%向上に見合った生活水準を考えて、経営していかななくてはならない。売値と質をきちんと見極めていく必要がある。いろいろな形態のサロンがあるが、選ぶのはお客様である。他業種との待遇格差是正を考え、従業員の待遇を良くしていくためには、美容師の質を向上させていかなければならない。

4. 次回予定

第1回学校関係者評価委員会 平成30年7月12日（木） 13:30～